

【質問】 新型コロナウイルスワクチンの接種後、副作用が出た場合に救済措置はあるのでしょうか。
(38歳、男性)

コロナワクチンの副作用、救済措置

【回答】 新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応としては、▽注射した部分の痛み▽疲労▽頭痛▽筋肉や関節の痛み▽寒気▽下痢▽発熱が上げられます。大部分は接種後、数日以内に回復しています。しかし、極めてまれではありますが、心筋炎、脳炎や神経障害などの健康被害を伴う重篤な副作用もあります。直後にアナフィラキシーショックが起きれば、死に至る場合もあります。県や各市町では、これ



は、県が協力を依頼している8医療圏の計14病院を紹介し、さらにまれ

県市町が24時間相談対応 死亡、後遺症には給付も

らの副作用の相談と調査のためにワクチンコールセンターを開設し、24時間電話で受け付けを行っています。頻度の高い軽度な副反応については、接種した医療機関や、かかりつけ医での受診を勧めています。専門的な治療や検査が必要と判断された場合

な副反応であれば専門的な医療機関（1カ所）を紹介する仕組みです。万が一、死亡したり後遺症が残ったりするような健康被害を生じた場合には、予防接種法に基づき給付を受けることができます。接種を受けた時に住民票を登録していた市町に相談し

てください。ワクチン接種による健康被害であったかどうかを個別に審査し、ワクチンによる健康被害と認定されれば、その程度に応じた保障がなされます。新型コロナウイルスの流行が始まってから3年近く経過しようとして

ります。理由としてはウイルスが変異し弱毒化したこともありですが、ワクチンの接種が広く行われたことも大きな要因と考えられます。感染者を診療していると、ワクチンを打った人の方が症状が軽く、症状消失までの期間が短い印象があります。新しい薬も承認され、当初の流行に比べればウイルスの脅威は減ってきたとはいえ、まだまだ予防をないがしろにできる段階ではありません。ワクチン接種は自身を守り、感染流行を抑える最大の武器です。副反応に対する措置は万全の態勢を敷いています。医師会としては、メリットが大きい接種を推奨しています。
(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。